



アラビア半島の南西の角に位置するイエメンは、豊かな遺産と魅力にあふれた国です。民主共和国として誇りを持つイエメンは、その協定を守り、人権を尊重することを約束しています。アラブ連盟、国際連合、世界貿易機関の献身的なメンバーとして、たくましさで協力の象徴となっています。

イエメンは、沿岸の平野部から聳え立つ山々、広大な高原、肥沃な盆地、黄金色に輝く砂漠まで、変化に富んだ景観が広がっています。その一つ一つが、自然の美しさと豊かな農業の営みを今に伝えています。

イエメンには4つのユネスコ世界遺産があります：魅惑的なソコトラ諸島、時を超えた旧サナア、歴史ある城壁都市シバーム、そして物語が息づく町ザビド。

イエメン料理は、何世紀もの文化交流の中で育まれてきた、豊かな食文化の結晶です。インドからの旅人たち、南アジアから戻ったイエメンの人々、そして北のエチオピアとの交流を通じて、多彩な食の伝統が生まれました。

イエメンでは、もてなしの心が芸術にまで高められ、その精神は優雅なカップでコーヒーを振る舞う作法にも表れています。夜になると、伝統楽器のウッドとカンブースの音色が辺りに響き渡り、温かな伝統を受け継ぐ人々の心を伝えています。

イエメンの文化と遺産に触れ、魔法のような魅力を体験してください！



©Expo 2025

イエメン館



色どり豊かな未来

伝統の価値を探索する

2025年大阪・関西万博のイエメン館へようこそ！

カマリヤとは色とりどりのガラスがはめ込まれた装飾窓のことで、当館のインスピレーションの源となっています。

イエメンの建築家たちが4,000年以上もの間、手作りで生み出してきました。

カマリヤのまぎれもない美しさに加えて、その実用的な役割にも心を奪われます。色とりどりのガラスを石膏にはめこむことで、室内に日差しを取り入れ、様々な色の光で空間を照らし出せます。カマリヤの装飾のうち、青は率直さを、緑は寛容さと多様性を、黄色は楽観主義を、赤は情熱と決意を、紫は叡智を象徴します。

かぐわしいインセンス（お香）をたきしめており、ゲストの皆さまにもほのかな香りを身にまもっていただけます。

イエメン館を見学していると、この国の魂と温かなホスピタリティを伝える音楽が聞こえてくるでしょう。

世界中の皆さまのご来館をお待ちしています！



想像を超えた魅惑の国を楽しむ

イエメンを訪れた人はみな、息をのむような美しい景観や夏場のリゾートとしての魅力に夢中になります。

冬には、この国の温かなホスピタリティがすべての旅行者を包み、忘れられない記憶を残します。サナアを離れると恋しくてたまらず、別れを告げる前からもう再びアデンを訪れたくなります。

人々のぬくもりや来客を歓迎する文化の証として、イエメンでは家の扉が開く前から、ゲストへの心の扉が大きく開かれています。

イエメン東部のマフラ県に向かえば、魅惑的な「ホフ自然保護区」が、したたる緑と静謐さであなたを迎えてくれます。

アラビア半島の南端を目指せば、ローマ人にかつて「加護の島」と呼ばれたソコトラ島に必ずや魅了されるでしょう。地球のどの場所とも違う独特の生態系を持つソコトラ島には、この世のものとは思えない景色が広がっています。ユネスコ世界遺産に認定されたこの島には、世界的にみて極めて貴重な動植物が生息しています。

自然に包まれてみてください。イエメンの魅力を見つけましょう！



マルハバを巡る

イエメンの美食を堪能しましょう。伝統的なアシーダ、香り高いズルピアン、甘美なビント・アル・サーンなどの郷土料理をご堪能ください。アブー・バクル・サーレム、アル・アーネシー、アユーブ・タリシュといった伝説的な音楽家たちの心に響く旋律で、夜のひとときを彩ってください。アル・アシュラフィヤ・モスクの精緻な彫刻の数々に感嘆し、雲に手が届くほど高いアル・フタイブ村へと登ってください。ビルキスの玉座の中庭を巡り、アワム神殿と古代都市バラキシュの荘厳さを探訪してください。歴史あるアデンの貯水池を散策し、バブ・アル・イエメンの門をくぐって悠久の歴史へと分け入り、壮麗なカイロ城へと登ってください。

イエメンの魅力をお楽しみください！



第二の母語で踊る

踊り手たちの心、響き合う楽器と身体、これらすべてが調和して、多様な舞踊の形を映し出します。それは、人々のアイデンティティと国の文化を真に表現し、祖国の地理を超えて広がっています。

動きの高まりによって一つになりながらも、これらの舞踊は地域や機会、時によって特色が異なります。手拍子と足さばきが同調するものもあれば、棒や皿、太鼓といった文化的な要素を取り入れたものもあります。

気分を盛り上げ、踊りに加わり、イエメンの魅力を見つけましょう！



これまでの万博参加

イエメンの万博参加は、1998年のリスボン専門万博（ポルトガル）から始まりました。その後、2000年のハノーバー万博（ドイツ）、2005年の愛知万博（日本）と続き、2008年のサラゴサ万博（スペイン）、2010年の上海万博（中国）にも出展しました。

さらに2015年のミラノ万博（イタリア）、2017年のアスタナ万博（カザフスタン）に参加し、そして2021年のドバイ万博でも、その存在感を示しました。

イエメンの万博の歴史を、2025年大阪・関西万博でぜひご覧ください！

